

## Sardulakarṇāvadāna の研究

青山亨

物語・過去物語・結合部からなるアヴァデーナ文献である。

Sardulakarṇāvadāna, ed. S. Mukhopadhyaya

(Saniniketan: Visvabharati 1954)

摩登伽経 (大正21、三九九〜四一〇頁)

舎頭諫太子二十八宿経 (大正21、四一〇〜四一九頁)

本稿は、I Divyāvadāna 所収として知られる S [ardulak] k [arna]  
A [vadāna] 及びその漢訳経典の伝える Sk 説話の展開を検討した  
のち、II 原 SkA 成立過程の一端を推定する。

I 今、検討の対象となる文献は次の3本である。いずれも、現在

これらの過去物語において、マータンガの王が星宿・占いの知識を  
教示する部分がある。この部分は、増広の過程が明瞭であり、異同  
の数量的把握が容易であるから、これらの比較検討によって、3本  
の相互関係を知ることができる。その結果を表に示す。  
この表から次のように結論づけてよいだろう。

SkA	摩登伽経	B	舎頭諫経
① 星宿の系譜	①	①	①
② 星宿の性質	②	②	②
③ 3種の yoga	③	③	③
④ 7曜 (graha)	④	④	⑤
⑤ 昼夜の増減 <sup>a)</sup>	⑬	⑤	⑦
⑥ (質疑応答) <sup>b)</sup>	⑭	⑥	⑧
⑦ 時間の単位系 <sup>c)</sup>	⑯	⑦	⑨
⑧ muhūrta の名称 <sup>d)</sup>	⑰	⑧	⑪
⑨ 時間の単位系 <sup>c)</sup>	⑱	⑨	⑫
⑩ 漏刻法による時間の単位系 <sup>e)</sup>	⑳	⑩	⑬
⑪ 大きさ・長さの単位系	㉑	⑪	⑭
⑫ 重さの単位系	㉒	⑫	⑯
⑬ 星宿の分析	㉓	⑬	⑰
⑭ 星宿の指示	㉔	⑭	⑱
⑮ 星宿の支配する領域	㉕	⑮	⑲
⑯ 季節の雨	㉖	⑯	⑳
⑰ 月食の結果	㉗	⑰	㉑
⑱ 星宿における行為	㉘	⑱	㉒
⑲ 犠牲による星宿の分類	㉙	⑲	㉓
⑳ 吉兆について	㉚	㉑	㉔
㉑ 昼夜の増減 <sup>a)</sup>	㉛	㉒	㉕
㉒ 閏について	㉜	㉓	㉖
㉓ 7曜	㉝	㉔	㉗
㉔ 星宿の maṇḍala	㉞	㉕	㉘
㉕ muhūrta の名称 <sup>b)</sup>	㉟	㉖	㉙
㉖ 地震時の星占い			
㉗ 病気の発生			
㉘ 束縛からの解放			
㉙ ほくろ占い			
㉚ 星宿の誕生占い			
以下省略 (㉛まで)			

注

- a) ㉑には別に棒影の長さを付す。  
b) Triśaṅku と Puṣkaraśārin との短い問答。  
c) ⑦と⑨は一部重複。  
d) ⑧と㉕はまったく別内容。  
e) 実際には⑨の一部だが、便宜上別出した。

- (1) 舍頭諫経の構成が Ska の原型に最も近い。(段階 A)
- (2) A に④⑥⑩⑫⑮⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺が、この順序で付加。(段階 B)
- (3) B の構成を改めたのが摩登伽経の構成である。⑨を欠くのは、⑦の重複として処理されたからであろう。
- (4) B の⑮と⑯を交換し、それに⑲⑳㉑㉒㉓を付加し、さらに⑳以降を

(恐らく漸時) 増広した結果が現行 Ska の構成である。

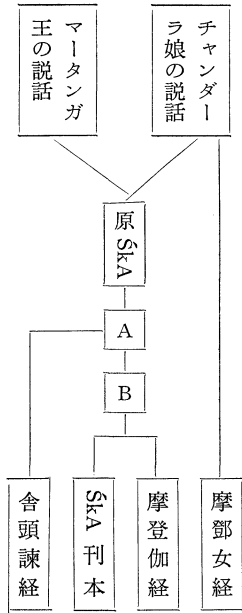
漢訳經典の文体並びに訳経目録の研究から、舍頭諫経は西晋・竺法護訳であり、摩登伽経の宋齊代以後失訳に先行して訳出されたと推定されている。したがって、先の結論を説話全体の相互関係に拡張することができよう。

Ⅱ 現在物語において、チャンダーラの娘が出家したことに人々が疑問を抱く。「此下賤種。云何当与諸四部衆。同修梵行。」それに対して世尊は、結合部において、過去世と現在世の人物比定に続いて、「以於往昔日。曾為夫妻。愛心未息。今故随逐。」と結ぶが、これは、なぜチャンダーラか比丘尼になれたのかという非難への答とはなっていない。それに対して、過去物語の反カーストの内容は、非難に呼応し、論理的な解答となっている。つまり、世尊の結語は Ska 説話の文脈から外れている。このような齟齬は、Ska 説話の不完全な変更の名残りであると推測される。この変更前の、世尊の答に対応する問は、「なぜチャンダーラの娘が阿難に恋したか」という内容となる。この場合、過去物語の反カーストの内容は導入の糸口を失ってしまう。

この、西晋代以前失訳とされる摩訶女経をみてみよう。この説話は、Ska 説話の現在物語とほぼパラレルであり、共通の祖型に由来すると思われる。同経は娘をチャンダーラとしないが、その母

を、名前は摩訶、蠱道の使い手と記述している所から、本来はやはりチャンダーラであったと考えられる。そのエピソードは、「諸比丘の問」「是女人母作蠱道。何因縁是女得阿羅漢道。」(世尊の答)「是摩訶女。先世時五百世阿難作婦。五百世中常相敬相重相貧相愛。同於我經戒中得道。於今夫妻相見如兄弟。」となっている。

Ska 説話現在物語も、本来はこのように、現在物語十因縁問答からなる独立した説話であったと推定される。一般に、説話における因縁の提示は、現在世における不可解な出来事を因縁原理によって説明してみせるというところに意義があるのであって、出来事そのものへの省察は二義的である。しかるに、反カースト的論調の過去物語と結合するにいたって、チャンダーラ存在そのものが焦点となるのである。この時、問は問題をより鮮明にする現行の内容に改められたが、答は、改められないまま残されたであろう。最後に、本稿の論旨を概念図に示す。



1 林屋友次郎「異訳経類の研究」(東洋文庫、昭和二〇年)五二九頁。 2 大正一四、八九五頁。摩登多解形中六事経(大正一四、八九五―六頁)と同本異訳。訳出年代については林屋前掲書五二七頁。(京都大学大学院)